

令和6年6月11日（火）

にんちしょう
中郷小学校4年生『認知症』の授業から
～みなさんに書いてもらったアンケート～



★「^{にんちしょう}認知症」の勉強をして、友だちやお家の人に教えてあげたいのはどんなことですか？

- ・ ^{にんちしょう}認知症の人を見つけたら、ひていせず、よりそってあげること。
- ・ ^{にんちしょう}認知症の人がまちがっていてもやさしく教えてあげたり、話をそらしてあげると ^{にんちしょう}認知症がすすむのがおそくなること。
- ・ 6人から7人の中に1人は ^{にんちしょう}認知症になっていること。
- ・ ^{にんちしょう}認知症は、さまざまな原因で ^{のう}脳の細ぼうが死んでしまったり、^{はたら}働きが ^{わる}悪くなったりするためにおこる ^{のう}脳の病気だということ。 ^{にんちしょう}認知症になっても気持ちは変わらないこと。
- ・ しっかりご飯を食べて、しっかりねて、外に行くなど ^{にんちしょう}認知症にならないためのことを教えてあげたい。
- ・ ^{にんちしょう}認知症は、お年よりの人がなりやすいこと。

★「^{にんちしょう}認知症」の人に会ったら、みなさんがしてあげたいことは何ですか？

- ・ やさしく話をしてあげたり、しっかりと話をきいてあげたいです。
- ・ やさしく、分かりやすく、よく聞くなどしてあげたい。声をちゃんとかける。
- ・ ^{にんちしょう}認知症の人が助けをもとめていたら、すぐに助けに行く。
- ・ ^{にんちしょう}認知症の人にいやな言葉をいわずに話を聞いてあげたいです。
- ・ やさしくしてあげたり、心を ^{きず}傷つけないように気づかってあげたい。
- ・ やさしく会話して、楽しい気分にしたたり、うれしい気分にして、^{にんちしょう}認知症が進まないようにする。

★保護者（祖父母）の方のご意見

- ・ 地域の大人では支えきれなくなってきた中、子どもたちにも支援の意識を高めるためのよい機会だと思います。
- ・ 今回の講座をきっかけに、家庭で認知症のことを話し合う良い機会にしたいと思います。
- ・ 父・母がもし認知症になった時、子どもたちも少しでも一緒に考えて支えてくれたら負担や気持ちも楽になる気がします。
- ・ 子どもも大人も忙しい中、どうしたら思いやりを保ち続けられるか、考えさせられる教育でした。
- ・ 自分も祖父母も認知症だったので、話を聞いて昔していたやりとりを思い出しました。今は核家族化が進んでいて、子どもたちが実際に認知症の方と会うことも少ないと思うので、このような機会でも話をしてもらえて認知症について知ることができ、良かったと思います。

